

社会福祉法人 福寿会 中長期事業計画 2025 年～2034 年

令和 7 年度に福寿会の中長期計画を策定するにあたり、前の平成 27 年度から令和 6 年度までの中長期事業計画（前期平成 27 年度から平成 31 年度、後期令和 2 年から令和 6 年度の中長期事業計画）を検証し見直し、新たに今後 10 年間の中長期計画を策定いたします。

平成 27 年度から平成 31 年度(令和元年)の前期事業計画においては、平成 31 年には平城園の老朽化に伴う大規模改修計画(2 期工事)の新築工事を完成し、職員や地域の方のための企業型事業所内保育園の設立等新たな事業にも参入し、10 月には中登美ヶ丘に奈良市民間保育園を開設し本格的に保育事業に参入しました。

また、令和 2 年から令和 6 年の後期事業計画については、地域ニーズに即した新規事業への参入として、認知症対応型グループホーム(地域密着型)、あきしの整形クリニック(リハビリテーション併設)を開設しました。並行してならやま園の保全計画の元、老朽化対策のための整備補助金を使って改修工事を完成しました。令和 6 年にはならやま園の前に、サービス付き高齢者住宅として第 2 号となる「グレイス福寿」を建設し、現在順調にご入居頂いています。

また、現在、人材確保と育成についても、専門的に管理職として人事部長をおき、採用、面接から育成、定着、とトータルで管理しています。また、令和 5 年より外国人雇用も積極的に進めており、現在は 8 名の外国人を採用し、今後も積極的に採用を進めて行きます。また、国の補助金を使った寮を建設したことにより受け入れ環境もスムーズに進んでいます。

前期中長期事業計画は、全般的に新事業の拡大発展に注力することとなり、地域に対してもそれなりに貢献できたように思います。

上記の状況を踏まえて、令和 7 年度から 10 年間の中長期事業計画を策定したいと思います。また、前期事業計画の進捗状況を踏まえ後期事業計画を見直します。

現在、少子高齢化に伴う人口減少による人材不足、物価高騰による経営状況の悪化等、私ども社会福祉法人を取り巻く状況は、過去にない厳しい状況であります。このような状況下であっても自主性、自律性を担保した法人経営を安定的に継続させていくとともに、地域社会の主たる担い手として地域福祉の充実、発展に貢献していかなければならないと考えます。

現在、第一に考えるべきは、法人の経営基盤を強化することであり、その為にもここ数年は現状の各施設、各事業所の健全運営を優先的に推し進め蓄財に努めたいと思います。財力を付けたうえで、後期計画において、法人の事業運営をより発展的に拡大していければと考えます。

1. 公正かつ透明性の高い適正で安定的な経営を実行し法人のガバナンスを強化します。
 - (1) 月毎に、法人全体及び各施設、各事業所ごとに、経営状況を明確にして適正な収益を確保し安定的な財務基盤を強化します。
 - (2) 前期構築した新人事考課制度の活用と改善により、職員それぞれの立場での役割や責任を理解し明確にし、一人ひとりが活躍できる体制づくりに努めます。
2. 利用者の人権を尊重し、サービスの質の向上に積極的に取り組みます。
 - (1) 利用者の自己決定と選択を尊重し、権利擁護を実現し、個人の尊厳に配慮した良質で、安心、安全なサービスを提供します。
 - (2) 職員教育の体系化と ISO 等の認証取得を進め、ケアの専門性と組織力を高めます。
 - (3) 給食サービスを充実します。(利用者に喜ばれる食事の提供に努めます。) セントラルキッチンの導入に向けての体制を整備します。
3. 人材の確保、育成、定着に向けたトータルな人材マネジメントを推進します。
 - (1) 人口減少による人材不足に対し、外国人雇用を積極的に受け入れて確かな人材として定着させていくために採用から教育、定着をスムーズに行えるようシステム化し人材の確保に努めます。
 - (2) 介護、保育の人材確保のため、SNS や HP などを活用し求人活動を進めるとともに職員が安心して働ける職場環境づくりやキャリアアップしていけるシステムを構築することで、優秀な人材に長く安心して働いてもらえる法人を目指します。
 - (3) 人材の定着化に向け業務改善を進め、休憩室の確保等、職場環境を整え魅力ある職場作りを目指す。
 - (4) 介護ロボット、ICT 等のテクノロジーの導入活用を推進し、LIFE (科学的介護情報システム) を上手に活用し生産性向上に取り組みます。
4. 地域における公益的な取組を推進し、地域とのより良い関係を継続します。
 - (1) 社会福祉法人として広く地域社会への課題解決に取り組み、地域社会との共創を通じて、持続可能な法人の社会的存在価値を強化します。
 - (2) 健康サロン(介護予防)や災害時に備えた福祉支援体制づくりを積極的に取り組みます。

5. 保育事業の更なる安定的、発展的運営に取り組みます。

(1) 園児数の確保と適切な予算執行に努め、収支の安定を図ります。

0歳児及び1号認定の受け入れ充足を目指します。

(2) 職員の質の向上とキャリアの構築に努めます。

園内研修及びカンファレンスを通して専門性を高め、優秀な人材の確保と育成に努めます。

(3) 地域に開かれた園づくりに努めます。

子育て広場を開催したり地域の中学高校や地域住民とも交流を深め地域に根差した園となるよう努めます。